

手順書:呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連

3. 非侵襲的陽圧換気の設定の変更(1)(2)

【特定行為の概要】

医師の指示の下、手順書により、身体所見(呼吸状態、気道の分泌の量、努力呼吸の有無、意識レベル等)及び検査結果(動脈血液ガス分析、経皮的動脈血酸素飽和度(SpO_2)等)等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、非侵襲的陽圧換気療法(NPPV)の設定条件を変更する

【当該手順書に係る特定行為の対象となる患者】

□非侵襲的陽圧換気(NPPV)を実施しており、担当医師により手順書に基づく設定の変更が可能と判断された患者



【看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲】

- pH、 PaCO_2 (ETCO_2)が治療目標範囲から逸脱している
- PaO_2 (SpO_2)が許容される範囲から逸脱している
- 呼吸仕事量が増加している
- 呼吸管理に至った原疾患の状態に著しい変化がない
- 意識状態が安定している
- 循環動態の著しい変化がない

病状の
範囲外

不安定
緊急性あり

担当医師に直接連絡

病状の
範囲内

安定
緊急性なし

【診療の補助の内容】

- 非侵襲的陽圧換気の設定変更
- ・呼吸状態の観察・アセスメントを行い、設定変更の必要性を検討する
- ・酸素化や換気の状態、ウィーニングにあった設定へ変更する
- ・呼吸状態の観察・アセスメントを行う



【特定行為を行うときに確認すべき事項】

- 適切に気道確保されている
- 意識状態の変化:意識レベル、鎮痛の評価(BPS・NRSなど)、せん妄評価(CAM-ICU・ICDSCなど)
- 呼吸状態:胸郭の動き、呼吸音、補助呼吸筋、呼吸回数、呼吸パターン、呼吸困難感
- バイタルサインの変化(循環動態の変化:心拍数・血圧・不整脈・虚血性心電図変化・尿量)
- 消化器症状:腹部膨満、吞気、嘔気、悪心、嘔吐
- 酸素化能: PaO_2 、 SpO_2 P/F比
- 肺泡換気: PaCO_2 、 ETCO_2
- 動脈血液ガス分析
- NPPVパラメータ:1回換気量、分時換気量、気道内圧、リーク量、グラフィックモニタ
- NPPVとの同調性
- 気道分泌物の量・性状
- マスク関連:フィッティング、マスク装着部の皮膚発赤、びらん
- 合併症の有無:気胸、皮下気腫、無気肺等
- 設定の調節では対処できない問題の有無:病状の悪化等

<確認事項>
異常・緊急性あり

担当医師に直接連絡



【医療の安全を確保するために医師又は歯科医師との連絡が必要となった場合の連絡体制】

- 担当医師に直接連絡する



【特定行為を行った後の医師又は歯科医師に対する報告の方法】

- 担当医師に直接連絡する
- 特定行為の実施を診療録に記載する